

■日立市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第4回）

開催日時：令和元年11月28日（木）15：00～

開催場所：日立市役所 503・504 会議室

出席委員数：38名中31名

1 開 会

2 会長挨拶

○会 長： 前回の有識者会議からちょうど一ヶ月が経過した。この間、事務局で作業いただき、その成果が皆様のお手元にある。内閣府の総合戦略の手引きを読み返したが、ともかくもPDCAを回すに当たっては、特にこのプランの段階で、チェックの部分を非常に厳密に描かなければならないと考える。チェックというのは、行政が主体のアウトプットはもちろんだが、その先に市民がどうなのかというアウトカムがある。例えば、希望する市民が安心して子どもを産める、市民が犯罪に巻き込まれない、市民が稼げるなど。必ずしも市民が主体ではないが、考え方として市民にどのような便益をもたらすかということプランの段階でしっかりと描いて、それをもとに成功したかどうかを測れるように現段階から考えていくことが一番重要である。そのためにも忌憚ないご意見をいただきたい。

3 議 事

(1) 第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子について

ア 総 論

【質 疑】

○会 長： 総論についてご説明いただいた。ご質問・ご意見等はあるか。

「まち・ひと・しごと総合戦略」という名称で共通の枠組はあるが、今後変更される可能性があるので保留の部分もある。基本的骨格としてこれでよいか。

※異議なし

イ 各 論

(ア) 横断的な目標

(イ) 基本目標1

※Society5.0動画視聴

【質 疑】

○会 長： まず、「(ア) 横断的な目標」については基本方針で掲げた人口の社会減対策及び自然減対策として、これがすべての基本目標に共通しているということである。そして「ひたらしさ」も4つの基本目標に横断的に使われている。18頁の横断的な目標についてご意見を伺いたい。

※意見なし

- 会長： 次に、基本目標1について「雇用の確保・創出」となっているが、Society5.0の動画にもあったように、雇用につなげていく上でも、産業の体力づくりを支援していく項目もかなり入っている。この点について、ご意見を伺いたい。
- 委員： 日立市は工業都市でもあるし、雇用の創出に向けては地域らしさが入っていてよいと考える。Society5.0の動画にもあった、最先端技術としてのBRTを生かした自動運転についての試験運用や地域独自の研究も進んでおり、よい方向性だと考える。
- 会長： 例えば30頁の「多様な人材確保・雇用」のところで、女性が活躍できる雇用の施策などが挙げられている。これまでの議論では女性といってもターゲットを絞るなどの意見があったが、これが足りないという点があればご指摘をいただきたい。
- 委員： 女性に向けた制度も充実してきており、働き方改革も進んできているが、道半ばである。家庭の両立や出産育児に協力するという意味では男性にも目を向けて活動していく必要がある。企業としても、男性の育児休暇を進めており、まだ道半ばだが、方向性としてはよいと考える。
- 会長： 例えば、②の「中小企業等の女性にとっての職場環境改善に向けた支援」というのも方向性として重要で、一番下の「家庭と仕事の両立」というのも女性だけの問題ではなく、次に示される具体的な施策が大事であると考えている。
- 委員： 目標に関しては、その通りである。中小企業といっても様々な職種・レベルがあるので一概に言えないが、一部の製造業では女性の必要性は非常に高い。細かな作業等は女性の方が得意である。Society5.0の動画を見てもっと努力し、考えなければならぬと感じた。ものづくりの考え方も、もう少しスマートにしなければと感じている。企業側がこうしていきたいということに対する支援があるとよいと考える。例えばAI、ロボット化、自動化などは今後必ず重要になってくる。
- 会長： 製造業分野においては、未来技術に人の役割が奪われていく部分もあると考える。その場合、女性だけでなく外国人の登用など劇的に変わっていくと思われる。製造業における人の役割をどう考えていくかが重要と考える。
- 委員： 「ひたらしさ」ということで、日立市には大学、大企業という財産があり、それを利用しない手はないだろうと、中小企業は考えていると思う。
- 委員： 高齢化が進んでいくことが予想される中で、若者は流出し、働き手が少なくなっていくことは、雇用する側として不安に感じる部分である。可能性としてあるのは外国人の登用や、市内在住者と仕事とのマッチングがもっと進んでいけばと感じている。中小企業における女性就業の促進のところに案が出ているが、もう少し具体的なところを伺いたい。
- 会長： 是非具体的な施策についてもご提案をいただきたい。動画に描かれている世界が来た時に、機械にはもちろん頼っていくが、その反面、人でなくてはならない部分も出てくると感じる。こういう分野で人が必要になるということを提言していただいて、その分野の雇用について考えていきたい。
- 委員： 施策全体の方向性はよいと考えるが、先程から出ている女性の仕事の創出について、具体的なところは難しい。サービス業も幅広い。どのような企業を誘致するかなど、もう少し具体的に考えていかないと進まない気がする。

また、20頁に「コンパクトで魅力的な住環境」とあるが、ひたちらしいコンパクトとはどのようなものかを考えていく必要がある。

SDGsの取組もあつたが、17項目が幅広く、どの項目にひたらしさを求めるのか、絞った方が深い取組になるのではないか。

○会長： SDGsは17のGOALの下に169のターゲットがあり、市としてできること・できないことの選別があるだろう。ここはまさに「ひたらしさ」を使って貢献できる部分を絞っていく必要があると考える。

女性の活躍はもちろんだが、現状、女性に重点を置いて考えている一方で、Society5.0はどちらかというとテクノロジーの発達による性差の解消につながる。これまで男性の仕事と考えられてきたものが解消する方向に進むべきだと考える。事務局で今後具体的な施策を並べるときには、その点も考慮されたい。具体的な施策については、次回出てくるので、皆さんでチェックしていただきたい。

○委員： 30頁の基本目標1「女性の活躍創出」のところは、ここだけ焦点がぼやけているように感じる。ここで挙げるべきものは、外からお金と人をもって来るもので、それが地域創生の根幹だと考える。市外からお金と人が入ってきて初めてニーズが生まれ、サービス業の創業や誘致ができ、そこに雇用が生まれる。使うお金がないとサービス業は生まれない。

やはり日立市の基幹産業はものづくりなので、まずはものづくりを伸ばして地域経済の成長力を確保することが優先と考える。

○委員： 27頁で、数値目標の例として「市内就業者数」とあるが、若い人がどれだけ地元就職できているのかを測る指標の一つには、「高卒の地元就職者数」がある。現状、市内で400人強の方が就職しているが、そのうち地元高校卒は40%程度に留まっている。高卒の地元就職率をもっと伸ばせるような目標も必要だと考える。

○会長： 地元高校から市内に就職する方もターゲットの一つにしていくが、地元高校にどのように働きかけるかという課題はあるかもしれない。

(ウ) 基本目標2

【質疑】

○会長： まず、日立市の住環境はどうか。住環境そのもの、あるいは住宅を取得するときの視点から伺いたい。

○委員： 住宅関係に関しては、他の地域と比べると土地が狭く、近隣自治体に転出する人が多いと聞くが、日立市に住めば補助を出すという施策を実施しており、利用者のニーズも高いので、今後も継続していただきたいと考える。私の感覚としては、反響がよく出ていると感じている。

○会長： 日立市に住みたいと思っても希望に合った土地や住宅がなく、近隣自治体に転出してしまう、という話は今までも出ていたが、補助金は他の自治体に比べて手厚いのか。

○事務局： 自治体によって制度や金額は異なるが、本市の場合は、明確に子育て世代にターゲットを絞り、親と近居・同居すると加算、市外から転入すると加算、さらに水道料も支援するなど幅広くやっている。最大で100万円を超えるので、手厚い方である

と認識している。

○会 長： まちの魅力の情報発信の点についてご意見はあるか。日立市の情報発信力も改善してきたと感じるが、いかがか。

○委 員： シティプロモーションについては、近年転入された子育て世帯の方に市内をまわってもらつツアーを組んだり、市内の良いところや子育て情報などを、よりピンポイントで発信したりしている。

また、都内を拠点にするメディアの方々を集めて市内各所を回ってもらい、自身のブログやインターネットを通じて情報発信していただくといった取組も進めている。前回SNSで情報発信をといたご意見もあったが、紙媒体でも伝え、同じ情報をSNS、ホームページなど色々な媒体で発信するという方法をとっている。どの媒体でも同じ情報が見られる状況をつくるのが大事だと考える。

また、地域の情報を発信しているところはまだまだ少ないと感じている。

○委 員： 36頁で、市外には日立市のPRを実施しているが、市内にひたらしさ、日立市の良さがPRできているか疑問である。ひたらしさを市民にも広く知らせること、知り得た市民によって、外から来た人に広げてもらうことが重要だと考える。一つの策として、市内の高校や市内企業にも広くPRしていくことが重要だと考える。

○会 長： どこかで時間があれば、既存の冊子等を皆さんに見ていただく機会があっても良いのではないか。

○委 員： 37頁に「②自然環境・スポーツ・文化」という項目があるが、日立市の海と山の良さをもっと活用して、交流人口・定住人口を増やしていくべきで、もう少し自然環境をアピールすべきだと考える。コンセプトづくりや活用方法、見せ方は非常に重要だと考える。

(I) 基本目標3

【質 疑】

○会 長： 小中学校のふるさと教育はここに入ってきている。次回までに是非こういう内容という提案があれば事務局にお寄せいただきたいが、現段階でお気づきの点があれば伺いたい。

○委 員： 例えば、都内と比較して気になるのは、医療費が都内は無料、こちらは600円かかるという点である。同様に埼玉県浦和市も無料だと聞いた。

○会 長： 子育て支援は大分充実してきたと思っていたが、事務局いかがか。

○委 員： お子さんの外来診療については、一つの医療機関で2回まで、1回600円をご負担いただいている状況で、3回目以降は無料である。この部分は、子育て支援の観点からも議論にはなっている。いわゆるマル福制度は、これまでも段階的に拡大しており、日立市独自で対象年齢を高校生まで年齢を引き上げ、後から県の制度が追い付いてきたところである。現状の外来診療に係る保護者負担については、今後の課題だと認識している。

○会 長： 是非進めていただきたい。保護者負担がなくなるのには色々理由があると考えられる。財源のほかに懸念される点はなにか。

○委 員： 経済的負担がない方が子育てする皆さんにとってはよいと認識している。一般論

としてだが、いわゆるコンビニ受診が増える懸念がある。

また、全国的な傾向として、一部の医療機関が必要以上に検査を実施するなどの心配があると言われているが、全体から見ればそれほど心配はないと考えている。

○会長： 600円というのは、財政的に必ずしも取る必要はないのではないかな。

○委員： 概算すると、18歳までマル福の対象として、本制度をお使いになっている方の保護者負担分を無料にした場合、かなりの金額がかかると見込まれる。

○委員： 高齢出産だとダウン症等の可能性が高くなる場合もある。都内で受診する時は、実際に検査する・しないは本人次第であるものの、そのような検査をするかどうかの案内があった。その話をしたところ、日立市で妊娠・出産した人たちは初めて知ったと聞いたので、新しい取組もどんどん取り入れた方がよいと考える。

○会長： 国内でも是非を巡って議論があるところだが、検査を受けたい人は受けられるという案内を行う必要はあると考える。知らないままではサービス不足になる。

○委員： 妊婦健診の時には、お金が掛かる検査がいくつもあり、支出が多い。切迫早産などで入院すると、生命保険等に入っていないと支払えない金額がかかるが、若いお母さんでは保険に入っていない方も多い。妊娠するとお金がかかる上、その金額も安くない、補助もあるが回数が決まっているといった話はお母さん同士で広まるので、子どもを持つことへの不安につながる。妊娠・出産に対する負担が減れば、子どもを産みやすくなるので、妊娠に伴う検査などに対する補助を充実させることも必要だと考える。

○会長： 切れ目のない支援は第一期から取り組んでいるが、妊娠・出産時のところでは出産祝い金以外に検査などの支援は入っていなかったか。

○委員： 妊産婦マル福として妊娠の継続に必要な部分を支援する制度はあるが、所得制限や、対象となる検査に該当する・しないということがある。手元に資料がなく、詳細がわからない部分もあるので、確認したい。

○委員： 自然減の歯止めになるということで、総合的に手厚い子育て支援を展開していくことが一段と重要になる。子どもたちが健やかに育つよう、将来にわたって支えていくような長期的な取組が必要。例えば、4人産んだら100万円差し上げるような思い切った施策も一つになる。小さな施策では出生数の増加につながらない。

○委員： 子育て支援センターを利用するお母さん達はそこで情報提供があったり、相談があったりして、悩みや負担感を大分解消できていると感じる。一方で、外に出てこない、子育て支援の場所があるとわかっていてもなかなか来られずに悩んでいるお母さんたちをどう支援するかも重要だと感じている。

○会長： 色々な声を事務局にお寄せいただきたい。密室育児に対するアウトリーチ、待っているのではなく出かけていくことが大事であり、その先に虐待の問題等もあるので、その視点は入れていく必要があると考える。その他、お母さん方の輪の中に入れないという方への情報提供も必要と考える。

(木) 基本目標 4

【質 疑】

- 委 員： 44頁に「人口減少社会に適応したまちづくり」とあるが、「人口減少社会」ということではなく、例えば「時代に適応したまちづくり」など前向きな表現がよいと考える。
- 会 長： 全体的に人口減少社会への対応は共通する話なので、ここでは前向きな表現がよいと考える。「新たな時代に適応したまちづくり」などとすると、自動運転の話なども含まれると考えるので、検討をお願いしたい。
- 副 会 長： 全般的なことでは、この会議の内容は、非常に難しい項目を国の枠組みに沿って日立市に見合ったまとめ方をしている。基本目標 1・2 は民間ベースのことを求めており、基本目標 3・4 は行政ベースでできる項目だと考える。
- 市民の立場からすると、全ての市民の方が現状よりは良くなったと感じられることが大切であると考え。今後検討する具体的な項目については、いかに日立市として特徴ある項目にしていくかが重要であると考え。
- コミュニティについては、書いてある通りだが、活動する側に回る人がどんどん少なくなっていると感じている。コミュニティのあり方も色々と考え直さなければいけない時期にきていると感じている。
- 委 員： 女性の活躍できる職場づくりと女性が働きやすい職場環境はリンクすべきと考える。サービス業は女性が活躍できる職種ということがあるが、現実的にお子さんをお持ちの方が土日働けるのか疑問が残る。子どもが幼稚園に行っている間に、働きたくても働くところがないという状況もある。現実問題として、民間企業の人手不足という状況があるので、民間企業の協力、意識改革で女性が働く職場が創出できれば、自然と日立市から出ていく人は少なくなると考えている。
- 高校生も、日立市を管内として、高萩、東海村等を管外とみた場合、管外で就職する生徒が多い。今後、市や商工会議所と協力して市内にこのような事業所があるということを幅広く高校生に周知していくことによって、市外に進学してもいずれ戻ってくる可能性がある。女性の活躍できる職場も含めて幅広く周知していく必要があると考える。
- 委 員： 「ひたちらしさの掘り起こし」について、今後どのように取り組んでいくのか非常に楽しみな部分である。
- 事 務 局： 例えば、日立市では以前から小学校入学時にランドセルを配布しており、市民としては当たり前だと思っていたところ、外部から日立市ではランドセルが支給されていて素晴らしいという声を聞き、改めて「ひたちらしさ」が掘り起こされたことがある。市民が認識していない「ひたちらしさ」を掘り起こし、住んでいる方が日立市で良かった、日立市って本当はすごいんですというアピールさせてもらっている。その幅をさらに広げていければという視点である。
- 会 長： これは「ひたちらしさ」だというものがあればお寄せいただきたい。ランドセルは、買わなくて助かるということではなく、一年生を迎える時の市の思想を表していると感じる。当たり前だと思っているが実は全国にはないというものを是非掘り起こしていただきたい。

- 委員： 46頁、公共交通サービスの推進のところ、「バスの路線の再編」と書かれているが、加えて支払い方法を考えていただきたい。バスを利用する際に、現金か「でんてつハイカード」だが、Suica等の電子マネーを利用できるようにした方がよいと考える。電子マネー等で支払える方が、若者も利用しやすいと考える。
- 委員： 基本目標2（3）③「キーパーソンとなる関係人口の創出」が新しく追加されているが（37頁）、こちらはどのような経緯で追加されたのか聞きたい。
- 会長： 国は、戦略の骨格は考えるが、具体的なことは地方で考える。キーパーソンは重要な内容だったので、再度事務局から説明をお願いしたい。
- 事務局： 地域活性化のキーパーソンとなる「関係人口」という言葉だが、今回の総合戦略を策定するに当たって、国から重点的なワードとして提示された。具体的には、実際に日立市には来ないが日立市に色々な影響を与えてくださる方、例えば東京でビジネスをしていて日立市に投資してくださる方などが「関係人口」である。日立市に何らかのつながりを持っている方が、市の活性化にも携わっていただけないかということでこちらに挙げている。
- 会長： 例えば地域おこし協力隊は大活躍されている。そういった地域をマネジメントする方にも定着していただく、キーパーソンとなる方を外から呼んで来ようという視点である。

4 その他

- 事務局： 次回の有識者会議は、国・県の状況を十分に把握した上で開催することとし、1月下旬又は2月上旬を目途に改めて日程を調整させていただきたい。

5 閉会

以 上